

文芸部

部誌紹介;ユニコーン



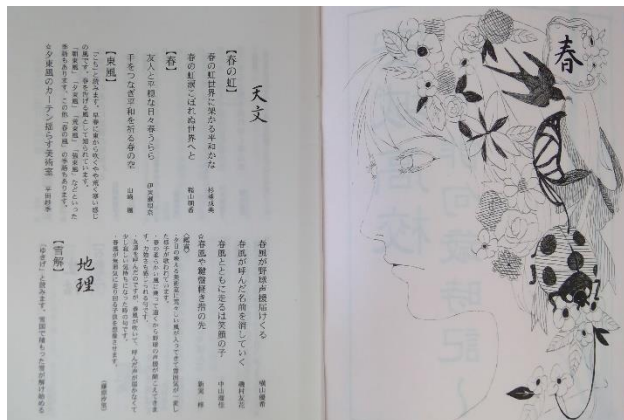
安城高校文芸部は、文芸誌「ユニコーン」を作っています。「ユニコーン」の創刊は、1986年（昭和61年）で、令和2年の11月で188号となります。活動は、小説・詩・短歌・俳句の創作やイラストを描いています。特に8年前からは、俳句づくりに力をいれていて、先輩たちが全国俳句大会で多数入選を果たしています。時々、句会をしてみんなで楽しんでいますよ。

先輩たちの作ってくれた「安城高校俳句歳時記」を紹介します。

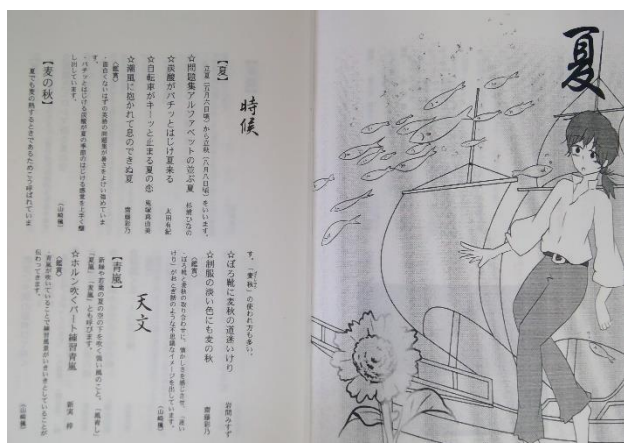


安城高校俳句歳時記

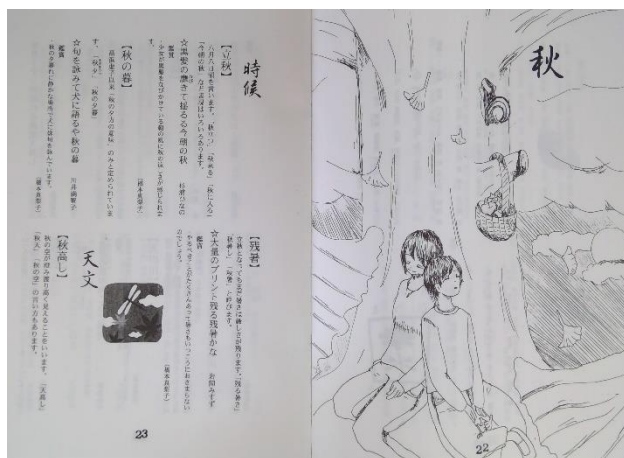
春



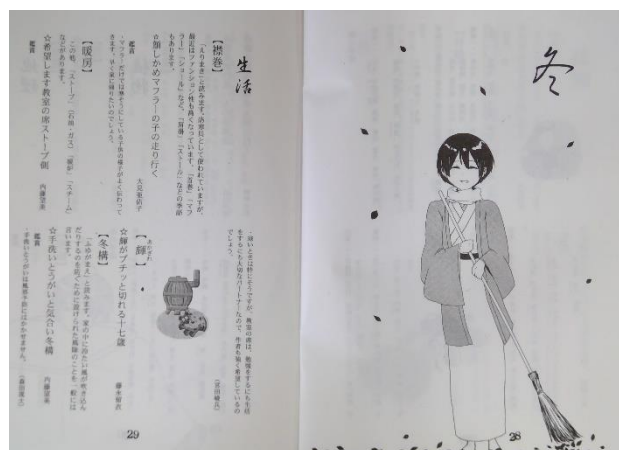
夏



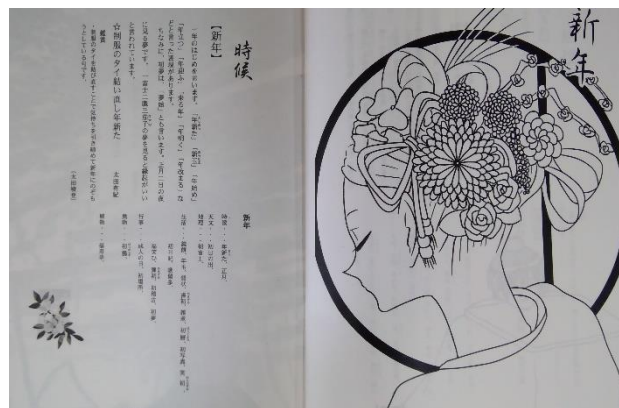
秋



冬



新年



無季



☆令和二年度 2020年

文芸部 大会結果 ☆

〇2020年ねりんピック（厚生労働省主催） 優秀賞（金メダル）

大河内麻衣子

飛蝗飛び鳥になれないこと知らず

深津直哉

飛行機を飲み込んでゆく雲の峰

入選

谷口七海

こがらしに頬を打たれてすくむ肩

石原櫻子

疲れたと嘆く私に山笑ふ

〇芭蕉翁献詠俳句

入選

磯貝柊貴

蒼穹に夢を叫びし蟬時雨

兵藤侑己

夏の夜虫が奏でる協奏曲

杉浦雅弥

鈍鈍と蜀黍積むや唐土船

〇市民文芸まつり俳句（安城市主催）

入選

大塩さくら

ママはこれ！息子の描いた夏の日や

佐藤宏樹

屋根掴み我慢うらべのつららども

松平祐真

むせるほどレモン水のごと恋す

〇愛知県高文連「映絵18号」（県作品コンクール）

参加者

磯貝柊貴

夕風の終はりを待ちて恋の夢

秋雨の寂しさ埋める恋模様

風花を壊さぬやうにと君触るる

平岩洋一

天も地も心揺さぶる蛍の夜

夏の日々宝のやうな友情と

親友と十五の夏に夢描く

兵藤侑己

夏休み人とも君トンもディスタンス

告白をしようと今年も夏過ぎぬ

月見れば遠くに住みし君想ふ

大塩さくら

強東風よ君への未練吹き飛ばせ

届かずに消えゆく夏の栄光よ

無意識に歩幅広がる冬の暮

鈴木良梨

甘酸っぱい苺ミルクのやうな恋

埋み火の僕の心を可視化して

移りゆきほのめく思ひ仏桑花

眞島志歩

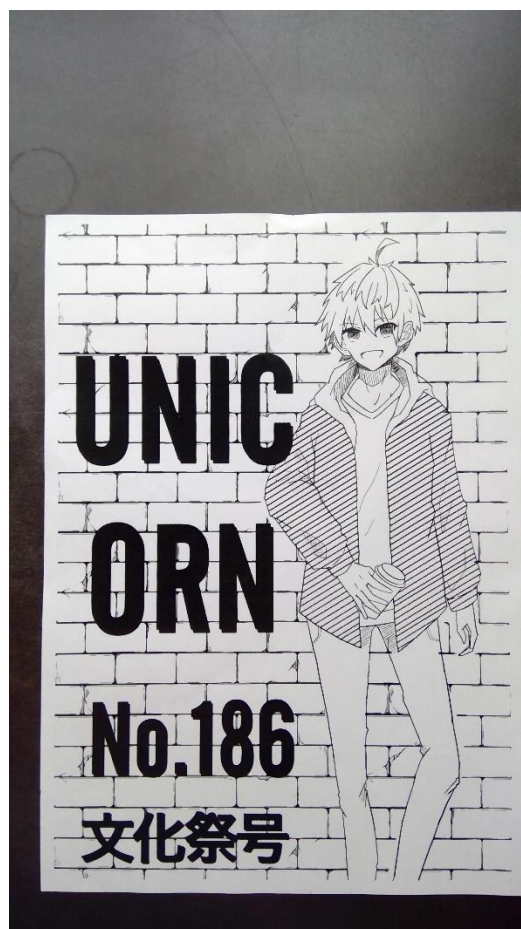
つかみとれ夢への切符かざぐるま

渡り鳥君に託そう僕の夢

テストあけ夢を探して冬銀河

文芸部誌

<ユニコーン>



☆令和元年度 2019年

文芸部 大会結果 ☆

○第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

「詩（ことば）フェスティバル」

入選（12名）

山田奈月 熱がさめ君が遠のく夏の果て
深津直哉 桜咲きさまざまな恋交差する
石原櫻子 空見上げ夢をさがして夏の星
岩井竣亮 夏の空まだ見ぬ明日を写させ
谷口七海 昼寝中弟の来て目が覚める
有賀美幸 和太鼓の音で始まる夏休み
鳥居ひな子 カラフルな蜜山盛りにかき氷
成瀬琴美 葱坊主とつて集めた幼き日
鴨下萌花 薄墨の香りを抱く桜桃忌
加藤真巳 思ひ出は線香花火と共に散り
神谷汐香 蜘蛛の糸友との絆絡み合ふ
鳥居大暉 どこへ行く海峡越えし白鳥よ

特選（2名）

鴨下萌花 炎天にさらされたりし学徒たち
有賀美幸 大地踏み螢の道に導かれ

○第32回全国健康福祉祭和歌山大会 ねりんぴっく紀の国わかやま2019

優秀賞（ジュニアの部・高校生）（2名）

鳥居ひな子 ふはふはと泳ぐ海月に癒されぬ
加藤真巳 歓声の中で滅びる流れ星

入選（ジュニアの部・高校生）（4名）

石原櫻子 下駄の音花火の音が響く夜
岩井竣亮 もう二度とキミを見られぬ夏の星
高沢光太郎 螢鳥賊海に宇宙を作り出す
加藤真巳 暑さ逃げ日蔭で捲る文庫本

○第22回神奈川大学全国高校生俳句大賞 三句入選（2名）

加藤真巳 待合わせマフラーをまた巻き直し
マフラーに顔埋めては悩む恋
北風に口笛乗せて帰る道
角谷日菜子 ドンドンと花火の音や道遠く
金魚すくひ後先のこと考へず
団栗をつなげてかけるネックレス

一句入選（5名）

木村展大 サングラス外してみれば双子の子
高沢光太郎 熱帯魚異国の空気醸しだす
鳥居大暉 雪まみれローカル線の駅の上
石川瑞穂 笑いつつ町を見守る雪だるま
角谷日菜子 向日葵が下向く我は前を向く

○第30回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞 佳作

大西紘椰 英単語くわえてとんだ燕かな
加藤真巳 しんしんと母の背揺れて林檎切る

○令和元年度（第73回）芭蕉祭 入選

平岩洋一 壮大な積乱雲と安土城
石川瑞穂 手をあてて涙を隠す夏帽子
鴨下萌花 夕立に追はれ駆け行く運動靴
加藤真巳 蒲公英をつなげてつなぐ出会ひかな

○俳人協会第58回全国俳句大会

入選 高沢光太郎 甲虫我頂点と角上げて
佳作

三島彰祐 踏み出せば気づけとばかり蜘蛛の糸
神谷汐香 凍て空に心遅れて朝支度

○第31回市民文芸まつり（安城市主催） 入選

清水庸平 梅雨明けて変はらぬ夜を過ぎしけり
石原櫻子 夏の雨流してしまへ恋心
有賀美幸 落葉舞ふ終りを告げる時計かな
加藤真巳 履き慣れぬローファー響く春の道
鳥居大暉 桜散る雰囲気任せの恋が散る